

令和7年度  
「災害時学校支援体制構築事業  
(学校支援チームの設置・取組強化)」  
事業実施 成果報告書(最終報告)

埼玉県教育局教育総務部総務課

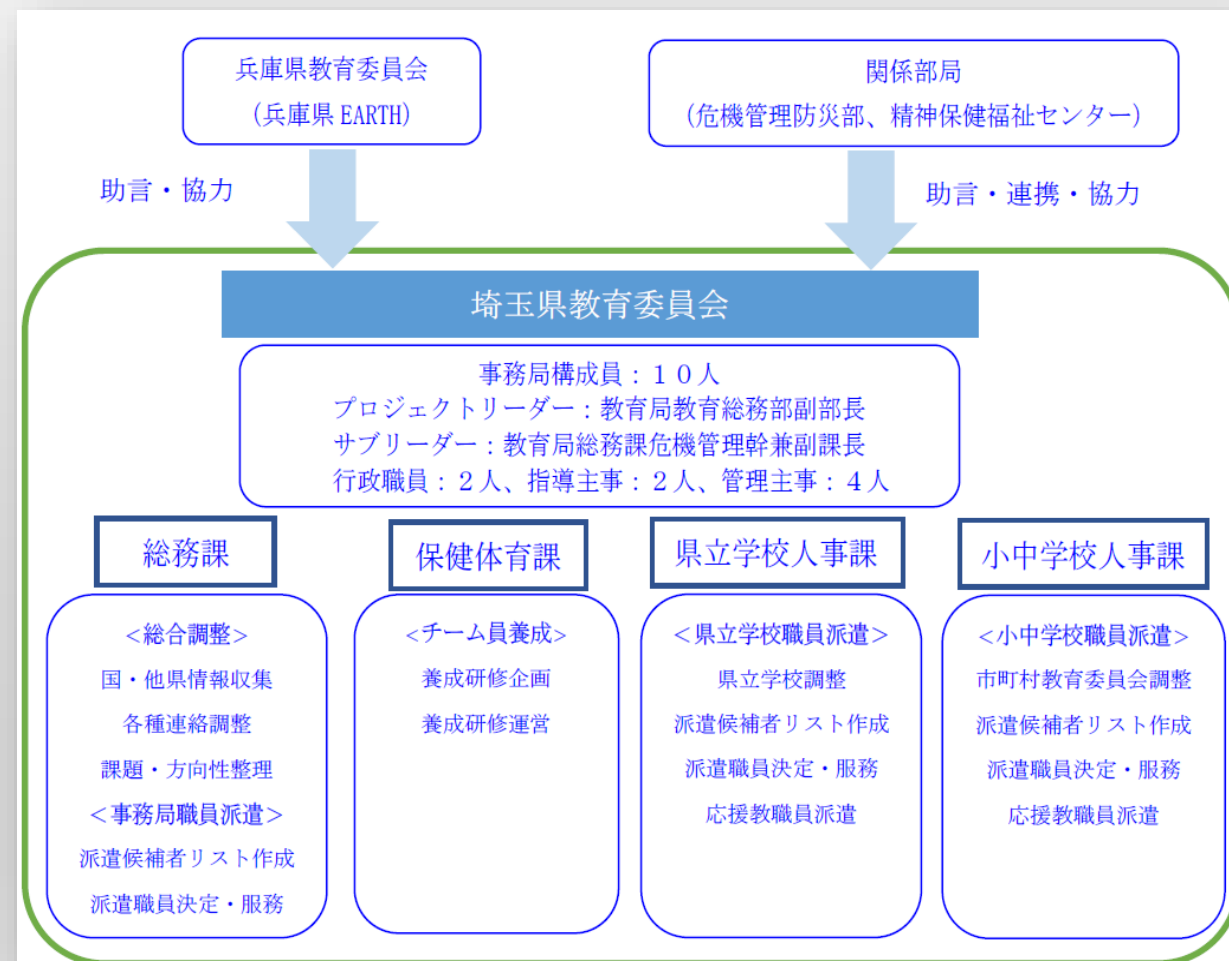


埼玉県マスコット「コバトン」

## 埼玉県の現状と学校支援チーム設置に向けた課題

- 能登半島地震の際には、石川県教育委員会からの要請を受け、中学生が二次避難を行った白山市内や金沢市内の二次避難施設へ学習指導等の支援を目的として、本県からも指導主事や養護教諭を派遣。
- 上記派遣は、学校再開後の学習指導等が主な活動であること、また、本県は大規模災害による被災経験が少なく、学校再開に向けた被災地支援のノウハウがない。
- こうした状況から、学校支援チーム設置のために、まずは、被災地支援や学校支援チーム設置の意義等について、**管理職及び教職員の意識醸成**、被災地支援に関する**教職員の知見等を養成**する必要がある。

## <学校支援チーム設置に向けた事務局の体制>



# 埼玉県災害時学校支援チーム（D-EST埼玉）の設置について 文部科学省 最終報告

## 災害時学校支援チーム設置までの取組

	時期	事務局対応事務
令和6年度	R6.11～R7.3	<p>&lt;第1回～第3回担当者会議 実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援チーム設置県の情報収集</li> <li>・事務局内関係課の役割分担等整理</li> <li>・チーム設置の方向性、検討事項及び課題の整理</li> <li>・チーム設置県への視察（宮城県教育委員会）</li> </ul>
令和7年度	R7.4～R7.5	<p>&lt;文科省へ事業計画書提出&gt;</p> <p>&lt;第4回、第5回担当者会議 実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討事項に対する方向性及び課題整理の共有等</li> <li>・養成研修内容調整</li> <li>・人員募集通知、養成研修実施通知準備</li> <li>・研修実施までのスケジュール共有</li> </ul> <p>&lt;関係部局への協力依頼&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理防災部等へ概要説明・養成研修協力依頼</li> </ul>
	R7.6～R7.7	<p>&lt;第6回担当者会議 実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要資料、設置要綱・募集要項等について</li> </ul> <p>&lt;市町村教育委員会、県立学校長等事前説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課所館長会議、各種校長協会、教育事務所長会、都市教育長協議会、町村教育長会</li> </ul> <p>&lt;チーム員候補者募集通知発出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各所属長、各市町村教育委員会教育長あて</li> </ul>
	R7.8～R7.10	<p>&lt;第7回、第8回担当者会議 実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣要領、チーム員候補者募集結果共有等</li> </ul> <p>&lt;支援チーム設置県研修参加（兵庫県教育委員会）&gt;</p> <p>&lt;養成研修実施：第1回～第3回&gt;</p>

## <市町村教育委員会等への事前説明>

令和7年6月11日(水)

教育事務所長協議会(オンライン)

令和7年6月25日(水)

埼玉県高等学校長協会理事会(オンライン)

令和7年7月2日(水)

埼玉県町村教育長会(対面:小川町)

令和7年7月4日(金)

埼玉県都市教育長協議会(対面:本庄市)

令和7年7月22日(火)

教育局課所館長会議(オンライン)



【埼玉県町村教育長会での説明】

## <養成研修の実施（主な内容）>

令和7年8月27日(水) <第1回(オンライン)>

- ・D-ESTの実際
- ・基本的な支援の考え方(スフィア基準)
- ・災害の基礎知識

令和7年8月29日(金) <第2回(オンライン)>

- ・災害ボランティア基礎知識
- ・学校教育応急対策
- ・心のケア基礎知識①②

令和7年10月21日(火) <第3回(対面:鴻巣市)>

- ・心のケア演習
- ・防災体験学習
- ・被災した学校における教育活動早期再開に向けた演習(ロードマップづくり)



【養成研修第3回(防災体験学習)の様子  
<地震体験>

## チーム員候補者募集前の事前説明について

### 【事前説明対象】

県内各市町村教育委員会教育長、各教育事務所長、各県立学校長、各課所館長

### 【説明内容】

- ・ D-ESTの枠組み及び学校支援チームの意義
- ・ 支援チームは県外だけでなく、県内において災害等が発生した際にも機能すること
- ・ チーム設置自治体が増えれば自治体相互の支援体制が整うこと
- ・ 平時においても防災教育の推進に役立つこと



【町村教育長会での教育長への説明】

## 募集通知の発出及び募集結果

【通知発出】 令和7年7月16日

【公募期間】 令和7年7月16日～8月8日（3週間程度）

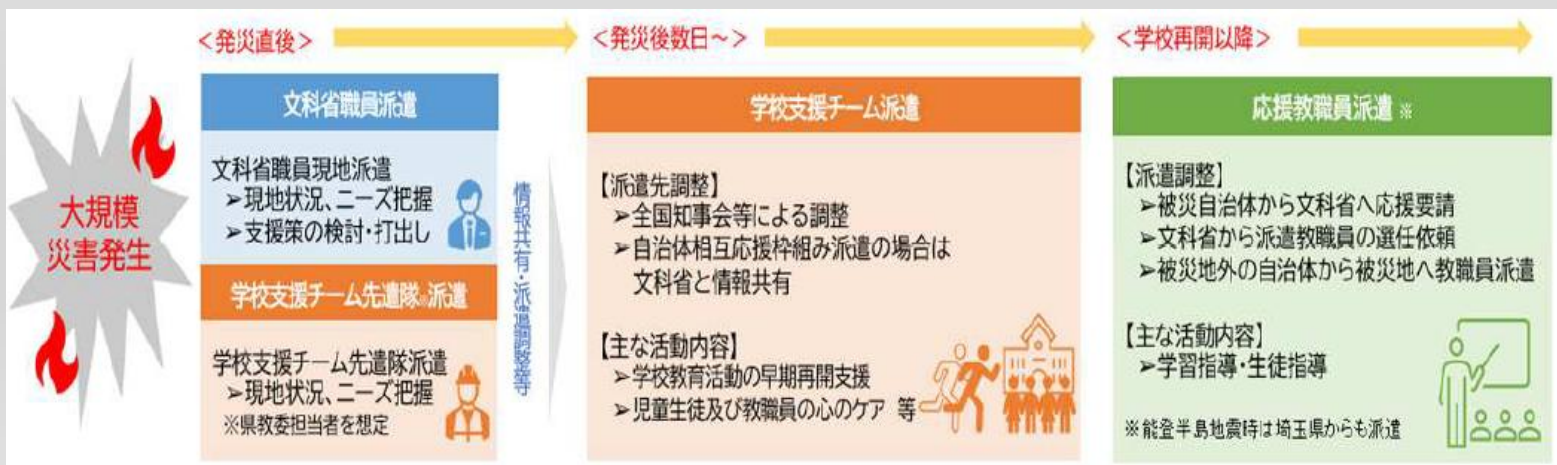
【公募対象】 校種や職種を限定せず広く公募（管理職、臨任、初任者除く）

＜募集結果＞ 応募者：34人

### ＜募集結果からの状況分析＞

- ・ 応募者の地区分布に偏在が見られた  
→ 応募の少なかった地区への更なる周知が必要
- ・ 特定職種（栄養職員や司書）からの応募がなかった  
→ 更なる職種確保の必要性

応募の無かった自治体への継続した周知と併せ、被災地支援には「給食支援」や「図書室整理」等の専門的な職域の知識を生かせること等、  
今後は、具体的なイメージを持たせられるような周知方法の検討が必要



【募集通知発出時の概要資料（一部抜粋）】

## 養成研修の企画及び実施の目的

災害時の早期学校再開のため、学びの継続や学校の早期再開に向けた支援を行うことのできる教職員等を育成すること。

## 養成研修企画に当たっての視点

下記2点の視点により、研修内容を検討

### 視点1：被災地派遣で求められる能力

先方のニーズに応える能力  
～被災地での活動を中心に～

→現地の校長からの要望対応能力  
→様々な校種で対応できる能力  
宮城県・兵庫県からの聞き取り

### 視点2：先進県の研修内容

- ・研修内容は3本柱
  - (1) 防災教育
  - (2) 防災体制
  - (3) 心のケア
- ・防災ボランティアとしての知識の習得  
宮城県・兵庫県からの聞き取り

(1) 防災教育(災害に関する教育)	(2) 防災体制(災害対策)	(3) 心のケア
災害の基礎知識	D-ESTの実際(EARTH員による支援概要説明)	心のケア基礎知識 (2回に分けて実施)
	基本的な支援の考え方(スフィア基準)	
災害ボランティア基礎知識		
防災体験学習	学校教育応急対策	心のケア演習 (基礎知識を踏まえて演習実施)
	教育活動の早期再開(ロードマップづくり)	

## 養成研修の実施 時程・講師について

### 令和7年8月27日(水) <第1回(オンライン)>

- ・D-ESTの実際 10:30～12:00  
講師:兵庫県教育委員会 EARTH員 市川 真由子 様
- ・基本的な支援の考え方(スフィア基準) 13:00～14:30  
講師:神戸学院大学 現代社会学部 教授 前林 清和 様
- ・災害の基礎知識 14:40～16:10  
講師:県危機管理防災部 災害対策課 職員



【D-ESTの実際】



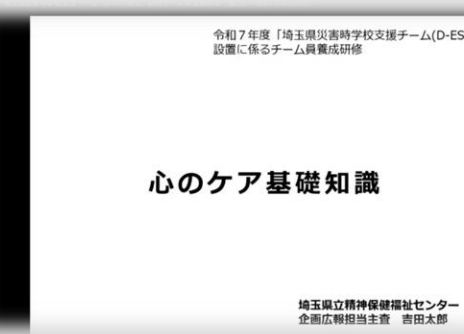
【基本的な支援の考え方(スフィア基準)】

### 令和7年8月29日(金) <第2回(オンライン)>

- ・災害ボランティア基礎知識 10:00～12:00  
講師:埼玉県社会福祉協議会 専門主査 近藤 直美 様
- ・学校教育応急対策 13:00～13:40  
講師:県教育局 保健体育課 職員
- ・心のケア基礎知識①② 13:50～16:00  
講師:県立精神保健福祉センター 職員  
講師:埼玉県公認心理師協会 山崎 健之介 様



【災害ボランティア基礎知識】



【心のケア基礎知識①②】

### 令和7年10月21日(火) <第3回(実地)>

- ・心のケア演習 9:20～11:20  
講師:埼玉県公認心理師協会 窪田 新太郎 様、山崎 健之介 様
- ・防災体験学習 11:30～13:00  
講師:能美防災そなえ(埼玉県防災学習センター) 職員
- ・被災した学校における教育活動早期再開に向けた演習(ロードマップづくり) 14:00～16:00  
講師:兵庫県教育委員会 EARTH員 観田 啓史 様、福水 智久 様



【被災した学校における教育活動早期再開に向けた演習】

## 養成研修受講者へのアンケート実施

研修内容ごとに、以下の視点に基づき、アンケートを実施（4段階☆☆☆☆評価） ※☆が多いほど良い

- ① 講義の分かりやすさ ② 各内容について自身にとっての有意性 ③ 次年度の研修企画検討時の参考(受講者側の視点から見た評価)

養成研修 第1日目（オンライン）	D-ESTの実際	基本的な支援の考え方(スフィア基準)	災害の基礎知識	
講義が分かりやすかったか	3.79	3.56	3.65	
自分にとって必要な学びであったか	3.82	3.62	3.56	
次年度新規チーム員に向けた研修としても必要な内容か	3.76	3.65	3.53	
養成研修 第2日目（オンライン）	災害ボランティア基礎知識	学校応急対策	心のケアの基礎知識①	心のケアの基礎知識②
講義が分かりやすかったか	3.73	3.67	3.79	3.76
自分にとって必要な学びであったか	3.79	3.70	3.79	3.82
次年度新規チーム員に向けた研修としても必要な内容か	3.64	3.73	3.79	3.79
養成研修 第3日目（実地）	心のケア演習	防災体験学習	被災した学校における教育活動早期再開に向けた演習 (ロードマップづくり)	
講義が分かりやすかったか	3.96	4.00	3.88	
自分にとって必要な学びであったか	4.00	3.88	3.96	
次年度新規チーム員に向けた研修としても必要な内容か	4.00	3.88	4.00	

### <アンケート結果から>

いずれの研修内容も受講者の反応としては4段階評価の平均値として、3.50を上回っており、一定の満足度がうかがえる。

特に、養成研修第3日目の「心のケア演習」や「ロードマップづくり」など、実地研修の評価が高いことから、対面での研修のニーズの高さがうかがえる。

## 養成研修受講者の声（アンケート結果から主なものを抜粋）

令和7年8月27日(水) <第1回(オンライン)>

### <D-ESTの実際>

- ・ EARTHの市川先生のお話を聞いて、学校支援チームの実際の動きをイメージすることができました。  
能登半島地震での実際の活動についてのお話を聞き、実際に派遣された際の心構えを明確にもつことができました。
- ・ 実際に活動する講師の方からの話を聞いて、派遣前から派遣された後まで自分が何をしなくてはいけないのかが明瞭となった。  
特に、避難所と共存しながら学校の早期再開を目指すうえで、教職員の心のケアが最終的に児童生徒の心のケアにつながるということがとても印象的でした。
- ・ 兵庫県のEARTHのお話が大変参考になった。埼玉県のD-ESTについても、非常時のみならず、平時において学校の防災意識を高めるような組織になると良いと思います。

### <基本的な支援の考え方(スフィア基準)>

- ・ 災害支援の枠組みを超えた人道支援という言葉がとても印象に残りました。深刻な状況下であっても人としての尊厳を守るという視点はあらゆる支援の根本として重要なものだと感じました。大きな視点だけでなく、それに基づいた学校の避難所運営についても説明があり、とても勉強になりました。
- ・ スフィア基準について具体的に知る貴重な機会となりました。災害や人道危機の状況において特に大切なことは尊厳、人権であること。  
避難所で尊厳を補償するためには様々な手立てや配慮が必要であること、それを実現するためには多くの困難が伴う事を知ることができました。  
また、前林教授のこれまでの活動で得た知見も具体的に紹介していただき、被災地の様子を映像で知ることができ、過酷な現状であることを改めて感じました。

### <災害の基礎知識>

- ・ 災害が起きた際にはジェンダー等考慮しなければいけないことが多く、そのための情報収集が必要だと感じました。
- ・ 埼玉県の防災の取組を学ぶことができました。教材として教えたことがある内容もありましたが、私たち大人が、あるいは支援者が、知識をもつだけでなく活用できる即効性を持つべきだと感じました。
- ・ 埼玉県は河川が占める割合が非常に高いことなどから特に水害が多いことなど本県における災害の特徴を理解することができました。  
また、あまり知らなかった県の防災体制について映像資料も交えてあることで分かりやすかったです。県の取組が具体的にみえました。

## 養成研修受講者の声（アンケート結果から主なものを抜粋）

令和7年8月29日(金) <第2回(オンライン)>

### <災害ボランティア基礎知識>

- ・ 災害ボランティアの活動について、自分が思っていた以上にさまざまな活動があることがわかりました。被災者の困っていることに合わせてできることをするという言葉が印象的でした。また、ボランティアを希望する人と被災した方をうまく繋げるためにも災害ボランティアセンターの役割は重要だということがわかりました。
- ・ 災害ボランティアは多種多様な業務がありますが、「被災者の生活再建のために」という大きな目的を持ち、困り事を自分からは言い出しにくい心情になりがちな被災者の状況を理解し、様々な困り事をイメージする力を持ち、被災者の気持ちに寄り添いながら、行政ではまかないきれない個別・多様なニーズに対して主体的かつ即応的に対応できる力が求められていることが良く分かりました。

### <学校教育応急対策>

- ・ 学校安全の体系について図式化されたもので確認できてよかった。学校健康教育の三領域(学校保健・学校給食・学校安全)を基に現任校の緊急マニュアルを再度見直したいと思った。また学校安全ポータルサイトの資料を読み込み、知識を増やしていきたい。
- ・ 自校では、危機管理マニュアルは策定されており、資料として年度当初に配付されているが、それについて、説明や協議する場が設けられていないことに気が付いた。避難訓練などは定期的実施されているが、形骸化している感じも否めない。実践的な避難訓練も実施していくことで、実際に災害が起こった時に訓練でやったことが生きていくと思う。災害が起こった時にどうしようとするのではなく、平時から、災害が起こった場合を想定して、教育活動をしていくことがとても大事だと感じる講義内容だった。

### <心のケア基礎知識①②>

- ・ 内容がわかりやすく、ポイントも絞られていて要点を理解することができました。特に、災害時におけるストレスはお話を伺う中で想像しがたいものであると強く感じました。しかし、だからこそ被災者がどういった心理的状况にあるのかを科学的知見を基に説明していただけて印象深かったです。特にPFAは専門家にしかできないものではなく、被災者に寄り添う誰もができるものであることを知ることができて、自分にもできることがあるのかなと前向きになれました。
- ・ 被災者のストレス反応や回復過程などについて知り、有事の際の被災者への対応について考えることができた。また、被災者のメンタル回復のための心理的応急処置(PFA:サイコロジカル・ファースト・エイド)等について知ることができ、実際に被災地に派遣された際に活かすことのできる内容であった。

## 養成研修受講者の声（アンケート結果から主なものを抜粋）

令和7年10月21日(火) <第3回(実地)>

### <心のケア演習>

- ・ 基礎講座をオンラインで受け、復習していただいたからの演習だったので、たくさん学べました。動画を用意していただいてイメージをもっていても、実際にやってみると一つ一つの場面で迷うことがあり、難しかったです。3つの場面設定が、それぞれ考えさせられる設定で、もし自分がその場に行ったら、もっと迷うのだろうと思いました。そんなときに、先生方の、「少なくとも、自分が関わることでより悪くしない」という言葉が心に残りました。
- ・ 支援者役、被災者役に分かれてのロールプレイングをすることで、どのようにコミュニケーションを取ればよいのかを体験することができました。被災地で実際に被災された方々とコミュニケーションを取るためには、さらに学びを深めていかなければならないと感じました。

### <防災体験学習>

- ・ 映像で見るよりも体験したことにより、より恐怖を覚えた。また、この感覚は体験しなくてはわからないので、実際に起こりうる災害に対して真剣に考えるきっかけとなりました。
- ・ 震度7の揺れや、秒速30mの風等、実際に体験することで本物の怖さを実感できました。この体験したことを基にすることで、被災された方々の心情に寄り添いやすくなるのではないかと感じました。
- ・ 座学だけではなく、仮想であっても災害体験をすることで、被災された方が感じる困難さを感覚的にも少しでも理解できたと思います。この感覚がトラウマとして無意識的にも傷となることも忘れてはならないと思い、今回の体験を覚えておきたいと思います。

### <被災した学校における教育活動早期再開に向けた演習(ロードマップづくり)>

- ・ 話し合うことで視点が広がっていくのを実感しました。被災時の対応でしたが、同時に平時の準備や取組の重要性を学ぶ機会にもなりました。勤務校のマニュアルをしっかり確認しておきたいと思います。
- ・ 学校復興の肝と言える講義、演習だと感じた。発災からの避難所体制構築など、ロードマップを通して考えさせられる点がたくさんあった。関係各署との連携が重要である。兵庫県EARTHの方々の貴重な講義は、大変勉強になりました。
- ・ 実際のEARTHチーム員の方のお話を聞け、じっくりと時間をかけてグループで検討でき、大変有意義な時間でした。講義を受けるにつれ、いよいよチーム員になるという自覚と今後勉強していかなければならないという前向きな気持ちになりました。ありがとうございました。

## 令和7年度震災・学校支援チーム(EARTH)第1回訓練・研修会(2日目)への参加

日時：令和7年10月17日(金) 9:30～16:00 場所：兵庫県立総合教育センター

### <訓練・研修内容>

#### ○報告1「フィリピン支援事業派遣報告」

- ・ 県教委とSEEDS ASIAが連携し、ボホール島やセブ島での学校視察、気象災害モデル校としての実践発表

#### ○報告2「令和6年度能登半島地震・被災地支援活動報告(第11次派遣)」

- ・ R7.7.29(火)～8.1(金)の4日間、16名(EARTH員13名、事務局3名)が、3班に分かれ各学校で支援
- ・ 学校や地域によって課題(中長期の心のケア、防災教育の取組、津波避難)や現在の状況が異なるため、地域やニーズに合わせた情報提供が必要。
- ・ 校舎内に爪痕が残る学校もあるが、前向きに防災教育を進めようとする学校が多い。
- ・ 個人ではなく、EARTHというチーム全体で継続して支援という意識を高く持つ姿勢が重要。

#### ○報告3「震災30年事業EARTH被災地訓練・研修会報告」

阪神・淡路大震災から30年を迎え、震災未経験の教員が増加、他県の学校支援チームとの連携を通じ、EARTH員の資質向上を図り、今後の被災地支援と兵庫の防災教育に活かすことを目的として実施

##### ■宮城県防災研修

- ・ 震災から得た教訓(避難訓練や防災教育の充実、教職員の対応(どんな状況でも子供の命を守る)、家庭や地域住民との連携、心のケアの重要性)のチーム員への全体共有
- ・ 宮城県(MIRAI員)との情報交換会では、避難所の運営の難しさやルールの確立(物の強奪、物資の管理)などの意見交換
- ・ 生徒に対する防災教育(自分の命は自分で守る、日々の健康管理、施健康教育)の重要性

## 令和7年度震災・学校支援チーム(EARTH)第1回訓練・研修会(2日目)への参加

### ■熊本県防災研修

- ・ 熊本県地震震災ミュージアムKIOKUや震災・豪雨遺構視察、熊本県学校支援チーム員との合同研修を実施
- ・ 合同研修では、両県から聞きたいテーマを設定し、意見交換・グループ協議を実施  
(豪雨災害に対する取組や支援のポイント、平時の活動や支援のノウハウの継承・被災地支援の実践例)
- ・ 持続可能な防災教育  
(現場理解と備品等補充体制、継続した支援には自身の体が資本、派遣職員などそれぞれの得意分野を発揮できる体制構築)

### ○校種・職種別実践交流「防災教育実践の交流」

小中高教諭、特支・養護教諭、栄養教諭・事務職員の5グループで、それぞれ班分けを行い、学校や地域での取組について情報交換

### ○講義「EARTH員の責務と阪神・淡路大震災の教訓の語り継ぎ」

震災未経験の教職員が増加しているため、震災経験者からEARTH員の責務と教訓について講義



【第1回訓練・研修会(2日目)の様子】

### <EARTH訓練・研修会参加により把握した有意な点>

- ☆チーム内組織として班体制を構築
- ☆他県チームとの合同訓練(研修)の実施
- ☆養成講座のほか実践的訓練・研修の実施
- ☆チーム員による県内外での防災教育実施
- ☆校種別・職種別交流会の実施

## 埼玉県災害時学校支援チーム（D-EST埼玉）設置

### 【設置年月日】

令和7年10月21日(火)

### 【チーム員認定式】

養成研修第3回終了後に同日実施

### 【設置時チーム員数：30人】

養成研修第1回～第3回  
全てを受講した者を  
チーム員として認定

<職種内訳:行政職員7人、主幹教諭2人、教諭15人、養護教諭3人、事務職員3人>

<校種内訳:教育局7人、高校2人、特別支援学校4人、小中学校17人>

### 【報道関係】

県政ニュース：10月16日(木)

[埼玉県災害時学校支援チーム\(D-EST埼玉\)のチーム員養成研修の実施及び](#)

[チーム員認定式について - 埼玉県](#)

テレビ埼玉：10月21日(火) 放送

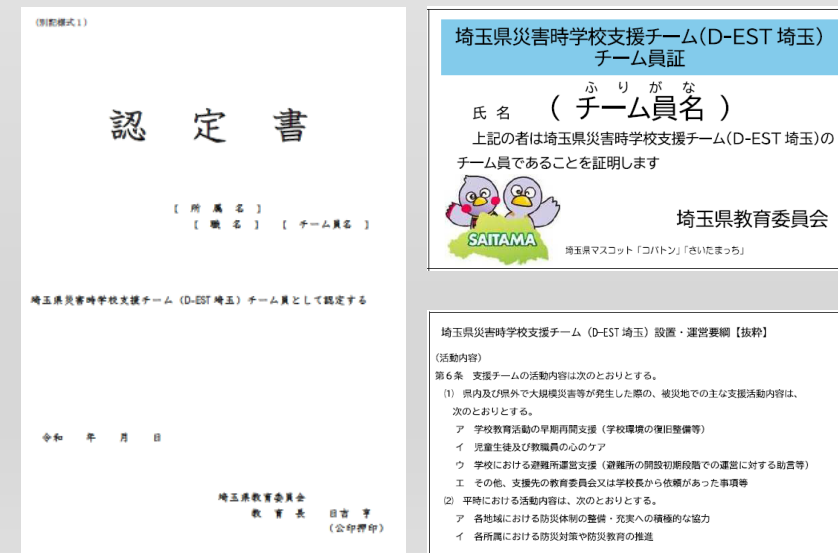
日本教育新聞電子版：10月21日(火)



【チーム員認定書授与の様子】



【文科省 中森様からの御挨拶(激励)】



【チーム員認定書及びチーム員証】



# 埼玉県災害時学校支援チーム（D-EST埼玉）の設置について 文部科学省 最終報告

## チーム設置後の取組（広報関係）

★**県教育委員会広報誌「県教委だより」への掲載と周知**  
県教委だよりNo.749\_令和7年11月号に概要掲載のうえ周知  
リンク先: [03kenkyoidayoripdf.pdf](#)

## ★各種県教委SNSによる広報

- Instagram  
リンク先: [Instagram](#)
- X(旧Twitter)  
リンク先: [https://x.com/saitama\\_kyouiku/status/1991674116022366657?s=46](https://x.com/saitama_kyouiku/status/1991674116022366657?s=46)
- Facebook  
リンク先: [埼玉県教育委員会 | Facebook](#)

## ★県ホームページ作成・概要掲載

埼玉県災害時学校支援チーム(D-EST埼玉)の概要や新規チーム員養成研修の内容、研修の様子や受講生の声を掲載  
リンク先: [埼玉県災害時学校支援チーム\(D-EST埼玉\) - 埼玉県教育委員会](#)

## ★県教育長5大ニュース選定

埼玉新聞掲載(令和7年12月26日)



【教職員向け広報誌「県教委だより」】



【instagram 埼玉県教委公式アカウント】



【県ホームページ作成・概要掲載】

## チーム設置後の取組（その他）

### <文部科学省中間報告会参加>

文部科学省にて、事業進捗状況を報告

【開催日】 令和7年11月7日(金) 【場 所】 文部科学省

### <文部科学省御担当者様との災害対応シミュレーション>

災害発生時における学校教育分野の対応シミュレーションを実施し、現状及び課題について情報共有

【実施日】 令和7年11月14日(金) 【場 所】 埼玉県庁

### <他県支援チームとの意見交換会参加>

第8回学校支援チーム意見交換会(宮城県) 対面参加

【開催日】 令和7年11月7日(金) 【場 所】 文部科学省

災害時学校支援チームの情報交換会(宮城県)オンライン参加

【開催日】 令和7年12月22日(月)

第9回学校支援チーム意見交換会(北海道) オンライン参加

【開催日】 令和8年1月16日(金)

### <次年度に向けたチーム員募集への協力依頼>

市町村教育委員会事務担当者へD-ESTについて概要説明及び次年度のチーム員募集に係る協力依頼

【会議】 第3回市町村教育委員会事務局職員研究協議会（オンライン会議）

【実施日】 令和8年1月15日(木)

【参加者】 市町村教育委員会事務局 関係課長、指導主事 等

### <文部科学省主催研修会への参加>

第1回全国学校支援チーム研修会へ「D-EST埼玉」チーム員4名が参加

【開催日】 令和8年2月20日(金) 【場 所】 一橋大学 学術総合センター

## <チーム員による現場での取組>

### 【取組事例】

- ・職員会議等を利用して管理職及び校内へD-ESTの概要も含め研修内容を共有
- ・校内マニュアルの見直し
- ・所属校内の防災部担当者として、研修内容を危機管理マニュアルや防災訓練実施内容の改善等に活用
- ・自身の受け持つ授業(社会科防災等)に研修で学んだ視点を反映



## 事業実施後の振り返り

### チーム設置までに苦労した点

- 県教委事務局内の各課間の調整(担当事務職員の認識共有や理解度の差を埋めるための調整等)
- 災害時学校支援チーム(D-EST埼玉)設置要綱・派遣要領等の各種資料作成
- チーム員候補者募集に際しての各所属長、教育事務所長及び市町村教育委員会教育長への協力依頼(事前調整)
- 養成研修の企画(研修内容の検討及び講師の選定 等)

### 今年度の取組から見えた課題

- ① チーム員の資質向上に係る研修等の企画
- ② チーム員用ハンドブックの作成
- ③ チーム員候補者募集期間の確保
- ④ 本枠組みに対する自治体ごとの理解度の差

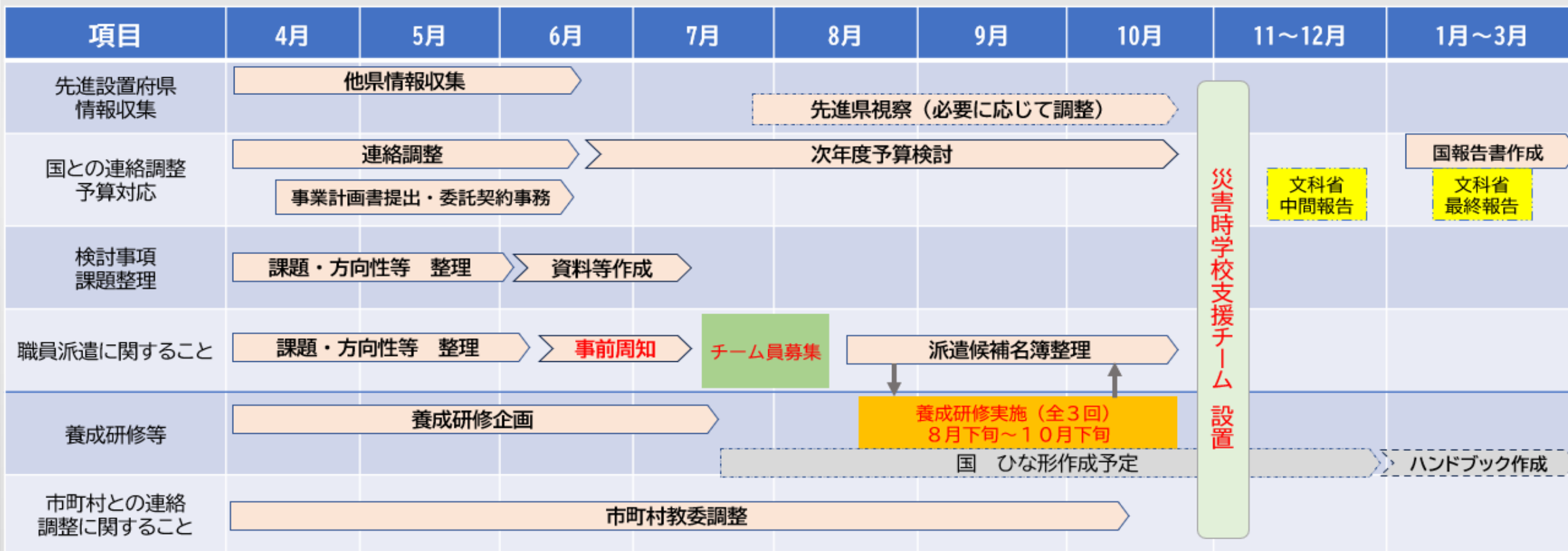
## 今後の対応方針

- ① **チーム員2年目以降を対象としたスキルアップ研修の検討等**  
チーム員を新たに養成する研修だけでなく、チーム員の資質を更に向上させられるよう、チーム員2年目以降を対象とした「スキルアップ研修」の実施について検討を進める。
- ② **文科省作成のひな形を踏まえた埼玉版ハンドブックの作成**  
災害時の対応を集約したハンドブックは必要不可欠と考えるため、国で作成予定のひな形を基に、本県においてもチーム員携行用のハンドブックを作成できるよう、事務局内で編纂体制を整えると同時に作成に当たっての予算確保に努める。
- ③ **次年度研修企画の早期着手と適切な募集期間の設定**  
次年度実施予定の養成研修について、早期の企画着手及び研修実施時期の設定により、募集通知発出時期を早め、希望者がゆとりを持って応募できる適切な期間を設定する。
- ④ **市町村事務担当者レベルでの周知(R8.1.15一部実施)により、市町村地区バランスを均等化**  
各市町村から均等に希望者が出るよう、働き掛けを継続し、将来的には県内各市町村に1名はチーム員がいる体制を目指す。

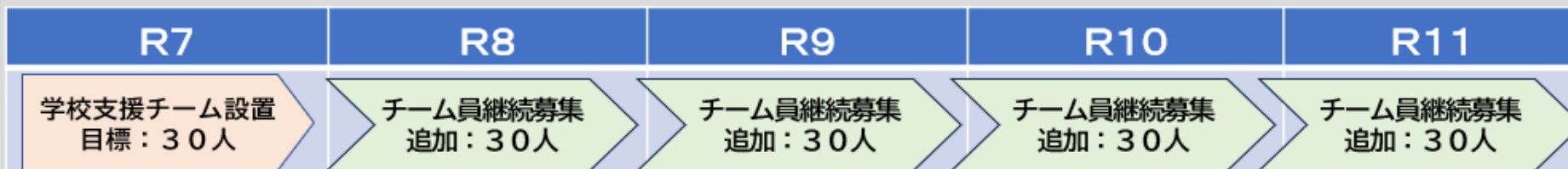
# 埼玉県災害時学校支援チーム（D-EST埼玉）の設置について 文部科学省 最終報告

## 【参考】災害時学校支援チーム設置までの R7 スケジュール

※支援チーム設置を目指した事務局内調整はR6.11～開始



## 【参考】令和7年度以降のスケジュール（イメージ）



学校支援チーム  
最終目標150人